

小学校英語における評価の一つのあり方 —これまでとこれから—

深澤信也 (FUKASAWA Nobuya)

埼玉県熊谷市立別府小学校

要約

外国語活動の評価については多くの学校が児童の「行動観察」や「振り返りシート」を点検しながら行っているという現状である。この評価の仕方を工夫した実践事例を「評価のこれまで」という枠組みで紹介する。具体的には児童に対する様々な方面からの言葉がけ、ペアリングの工夫を行った結果、児童の外国語活動に対する意欲が向上したということである。また 2020 年度の小学校英語の教科化に向けた評価の方法については未定であるが、「評価のこれから」という枠組みで教科化に向けた評価を実践している先進校の事例を考察していく。具体的には「聞く、話す、読む、書く」の4観点をどう評価するのかを追究していく。

(キーワード：評価, 言葉がけ, 聞く・話すテスト)

1. 研究の背景

外国語活動を行う上で、どの学級でも「積極的にコミュニケーションを図れない児童」が数名いる。その児童の性格や意欲等の問題も考えられるが、積極的に外国語活動に取り組むには、どのような評価方法が効果的なのか追究していく必要があると考えた。以下の3点が具体的な背景である。

- ①本学級の児童の実態として、外国語でコミュニケーションを図ることに抵抗のある児童が4名いること。
- ②外国語活動を実践するにあたり、友達や ALT との関わりを含む「コミュニケーション能力を育てる」活動が活動の多くの時間を占めること。
- ③外国語活動における評価と支援の研究を行った結果、「個に応じた支援の工夫を考える」という課題が残されたこと。

本研究の「支援と工夫」とは、具体的には言葉がけ、活動内容、ペアリングとそれらに対する工夫と捉えることとする。

2. 研究の目的と仮説, 手だて

(1) 目的

外国語活動に積極的でない児童に対する評価方法（言葉がけ、ペアリング）を工夫することで、学級全体の外国語活動に対する意欲を高め、コミュニケーション能力の素地を養う。

(2) 仮説

外国語活動に積極的でない児童に対する言葉がけ、ペアリングを中心とした評価方法や活動内容を工夫し、学習意欲を高めれば、児童に進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるであろう。

(3) 手だて

手だてⅠ 外国語活動中、活動後における評価の工夫

- ア 言葉がけがしやすい雰囲気づくり（教室掲示，教材，評価ボード，めあての設定）
- イ 活動中の指導者（担任，ALT，支援員），友達からの評価（ほめ言葉励ましの回数）
- ウ 活動後の担任，友達，保護者からの言葉がけ（学習カード，英語通信）

手だてⅡ ペアリングを中心とした，コミュニケーションを図りやすい活動内容の工夫

- ア 教師による意図的な「英語ペア」づくりと席の配置
- イ 意欲的に活動でき，友達とかかわる機会の多い活動内容（ペアでの活動内容）

3. 研究の内容

(1) 実践した単元「第5学年 Lesson9 ランチメニューを作ろう」

4時間の授業のねらいと内容

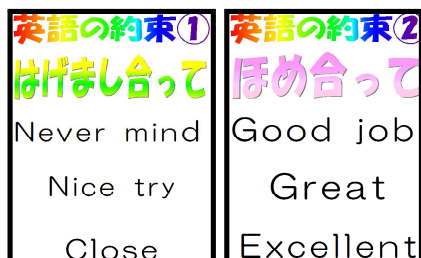
時間・日付	活動のねらい	活動内容
1時間目（1／4） 1 1 / 2 2	食べ物や料理名を知るとともに、ていねいな言い方で欲しい物を尋ねたり、答えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ We wish you a merry Christmas. ・ じゃなくてチャンツ ・ 「What would you like?」チャンツ ・ 食べ物カルタ取りゲーム ・ 2人組で「おはじきゲーム」
2時間目（2／4） 1 1 / 2 9	食べ物の語彙に慣れ親しむとともに、日本と外国とでは朝食に食べるものが違っていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ We wish you a merry Christmas. ・ じゃなくてチャンツ ・ 「What would you like?」チャンツ ・ Five Fingers ゲーム ・ どの国の朝ご飯かな？ 英語ノートP57 ・ オセロゲーム
3時間目（3／4） 1 2 / 6	食べ物の語彙に慣れ親しむとともに、レストランでのランチの注文や会話のやりとりを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ We wish you a merry Christmas. ・ じゃなくてチャンツ ・ 「What would you like?」チャンツ ・ ビンゴゲーム ・ ランチ注文ゲーム
4時間目（4／4） 1 2 / 1 3	オリジナルランチを作り、紹介し、友達のランチも聞き取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ We wish you a merry Christmas. ・ じゃなくてチャンツ ・ 「What would you like?」チャンツ ・ オリジナルランチ作り ・ オリジナルランチの発表 ・ 「誰が何を食べたでしょう？」クイズ大会

(2) 実践内容

手だて I 外国語活動中、活動後における評価の工夫

ア 言葉がけがしやすい雰囲気づくり（教室掲示、教材、評価ボード、めあての設定）

(ア) 教室掲示



外国語活動中は、「はげまし合い、ほめ合い」を合い言葉にし、間違えてもよいという「失敗を恐れない雰囲気づくり」を心がけた。これを掲示しておくことで、児童が積極的に発言したり、友達とかかわろうとする意欲を高めることができた。また、他教科の授業でも「good job, nice try」などの声がかかりやすくなった。

(イ) 教材 ヘルプカード

わからなかったときに「わかりません、教えてください」と口に出して言うのも恥ずかしい児童もいる。そこで授業前、各ペアに一部ずつヘルプカードを配布し、教師に質問しやすい雰囲気づくりに努めた。



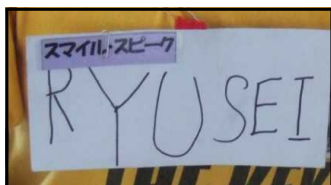
(ウ) めあての設定と名札の工夫

Enjoy English!!

E	Eye-contact アイコンタクト	・目を合わせて話す。
n	notice 気づく	・日本と外国のちがいに気づく。
g	gesture ジェスチャー	・ジェスチャーを使って伝えたいことを伝える。
l	listen 聞く	・友達や先生の話を一しけんめい聞く。
i	interest 興味	・自分から進んで手をあげる。
S	smile & speak 笑顔で話す	・笑顔で楽しく活動する。 ・はずかしがらず、先生や友達と何回も話す。
h	help 助ける	・友達をほめたり、はげましたりする。 ・友達と助け合って活動する。



外国語活動では、単に英語で会話をすることに重点を置くのではなく、非言語に重点を置いて活動することが大切だと考える。そこで、「ENGLISH」の7つの項目のうち、1時間に3つの項目を教師が選び、その3つの中から1つだけ、児童一人ひとりがめあて（これを授業では「がんばりポイント」と言う）を選び、設定した。設定した後は左下の写真のように、名札の左上に自分の選んだめあてを掲示しておいた。



このように児童がめあてを自分で決めることで、指導者や友達は児童が今日の活動で何をめあてとして取り組んでいるのかを明確にとらえることができ、言葉がけがしやすくなった。また、指導者や友達から認められたことで、活動に意欲的に取り組むようになった。

(エ) 評価ボード

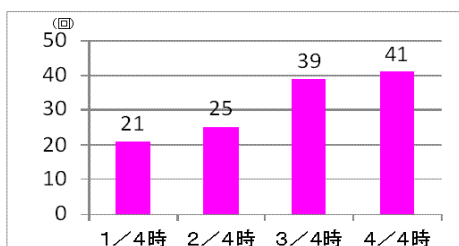


左のように、授業の初めは児童の顔写真をスタート位置に置き、上述の7つのポイントの中で、自分でそのポイントができたと思ったら「good」へ、教師や友達に褒められたら「very good」へ自分の顔写真を上に上げられる仕組みである。これにより、なかなか上がらない、つまづいている児童を確認することができ、励ましの言葉がけがしやすくなった。

イ 活動中の指導者（担任、ALT、支援員）、友達からの評価

活動中は指導者も友達もほめ言葉、励まし言葉を心がけるようにした。具体的には、次の通りである。

- (ア) good job, excellent, super, you did it などの一般的なほめ言葉
- (イ) nice eye-contact, nice gesture, good listening など「ENGLISH」のめあてに対するほめ言葉
- (ウ) nice try, never mind, close, don't worry, take it easy の励ましの言葉



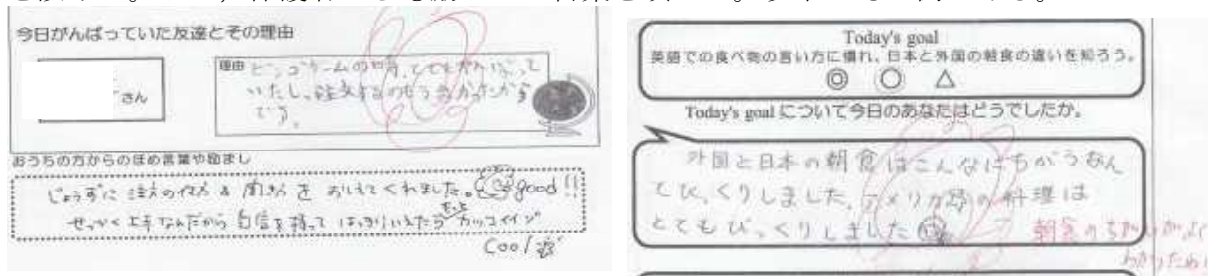
担任からの賞賛、励ましの回数

excellent など褒めることや nice gesture など「ENGLISH」のめあてに対するほめ言葉をかけたことが、児童の外国語活動に対する意欲を向上させられたと考えられる。3/4時、4/4時については、児童が2人組でコミュニケーションを図る場面を多くし、習得した英語を使う機会をたくさん設けたことが褒める回数を伸ばしたと言える。

ウ 活動後の担任、保護者からの言葉がけ（学習カード、保護者への発信）

(ア) 学習カード

活動終末の学習の振り返りで、児童の感想、自己評価、がんばった友達などを書く時間を設けた。また、保護者からも励ましの言葉を頂いた。以下がその例である。



(イ) 学級便りでの English topics



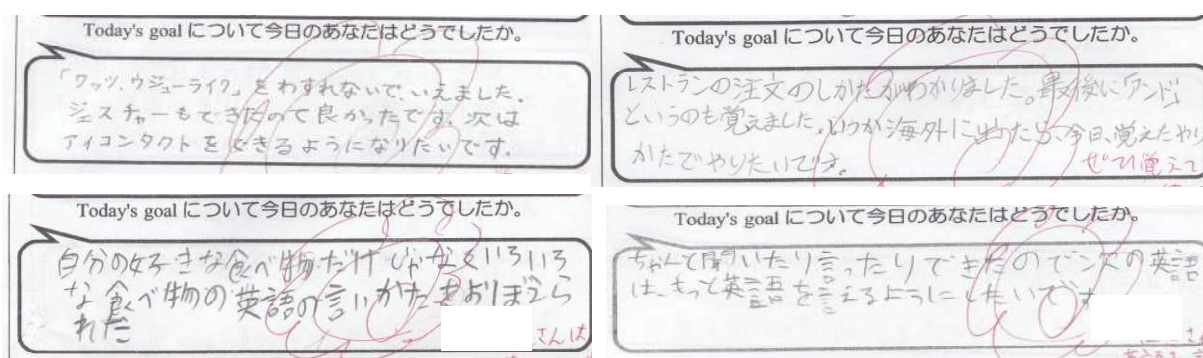
保護者に向けて学級便りを発信し、今週はどんな活動をしたのかを理解してもらった。児童の感想

を載せ、コメントを書くことで児童も自信をつけ、次時の意欲にもつなげることができた。

手だてⅡ ペアリングを中心とした、コミュニケーションを図りやすい活動内容の工夫 ア 教師による意図的な「英語ペア」づくりと席の配置

上述の通り、事前アンケートの結果から外国語活動を「あまり楽しくない」と答えた児童が4名いた。この4名に「積極的に友達とかかわれる児童」をペアで組ませ、意欲を改善することをねらいとしてペアで活動させた。英語活動の時間に、積極的に友達とかかわることを楽しむことを学び、その結果4名の児童は前向きな感想を書いたり、「がんばった友達」としてペアの児童の名前を書いたりし認め合うようになった。

〈4名の意欲の低い児童の感想〉



感想からもわかるように、外国語活動の時間に生まれるペアの絆が意欲の向上につながったと考えられる。

イ 意欲的に活動でき、友達とかかわる機会の多い活動内容（ペアでの活動内容）

4時間の授業には、毎時間ペアワークを取り入れた。以下がその例である。

（ア）Five Fingers ゲーム（指残り指さしゲーム）（2 / 4時での活動で行った）



- ①ペアになってランチメニュー表を2人の間に置く。
- ②児童が"What would you like?"と全員でALTに尋ね、ALTが"I'd like pizza."などと答える。
- ③児童は、相手より速く言われたメニューを指さす。指は絵をさしたまま、"What would you like?"と尋ねることを繰り返し、よりたくさん指さしができた方が勝ち。

（イ）サイコロゲーム（3 / 4時での慣れの活動で行った）



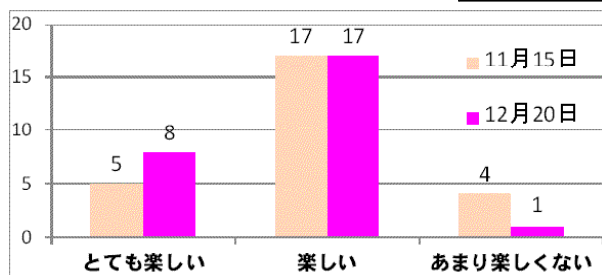
- ①互いに児童用絵カードを机の上に並べる。
- ②ジャンケンをし、負けた方が勝った方に"What would you like?"と尋ね、勝った方はサイコロを振る。サイコロの出た目の数だけ、相手のカードから食べ物を注文できる。

〈例 3が出た場合→ I'd like juice, pizza and parfait.〉

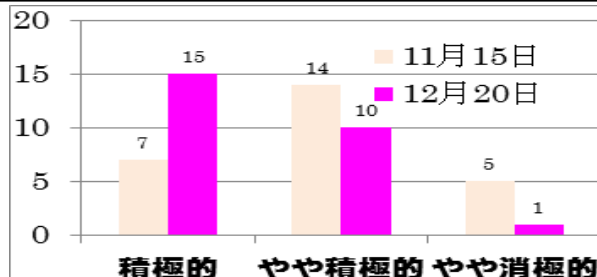
- ③早く相手のカードを全て取った方が勝ち。

4 仮説の検証

外国語活動は楽しいですか。

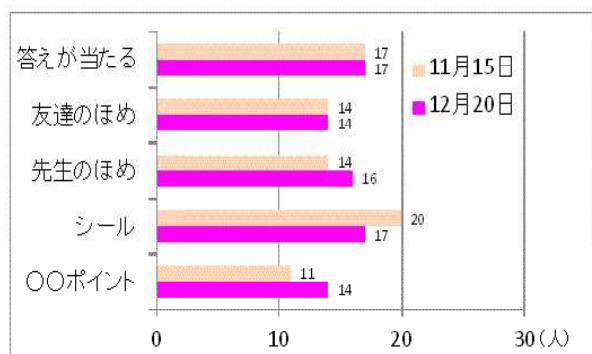


外国語活動の授業に、積極的に取り組んでいますか。



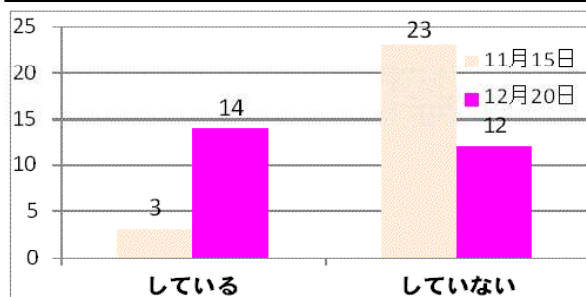
左のグラフから11月に比べ、12月の方が「とても楽しい」と回答した児童が増えた。「あまり楽しくない」と答えた4人中、3人が「楽しい」と感じるようになった。また、右のグラフから「積極的」と回答した児童が7人から15人に増えた。これらの結果から、「言葉がけ」や「ペアリング」を実践したことで外国語活動に対する意欲が増し、積極的に活動に取り組んでいたことがわかる。「言葉がけ」や「ペアリング」を工夫した結果、「good job」、「great」、「never mind」、「nice try」などの言葉がけが多くなり、児童が意欲的に活動に取り組むようになったといえる。実際の授業でも1/4時から4/4時にかけて、褒め言葉や励ましの言葉がけが増えていった。

どんなことがきっかけで外国語活動が楽しくなりましたか。(複数回答)



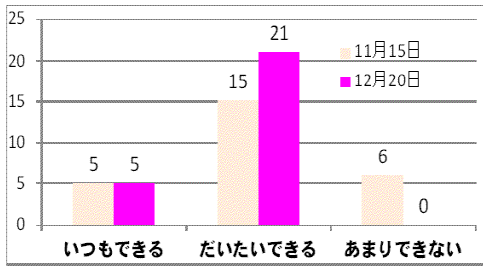
先生や友達から褒められたり、gesture ポイントなどの「ENGLISH」のめあてに対する言葉がけがきっかけとなり、外国語活動が楽しくなったということがわかる。ペアを作ったこと、言葉がけのポイントを明確にしたことが「楽しくなった」と言える要因と考えられるだろう。

英語の時間、ジェスチャー（身振り、手振り）を使って活動していますか。



英語の時間にジェスチャーを使うことを意識して行った結果、ジェスチャーを使う児童が3人から14人に増えた。児童はジェスチャーを使って自分の気持ちを友達に伝えようとしていることがわかる。

毎日の学校生活で、誰とでも話ができますか。



「いつでもできている」の人数は変わらないが、「だいたいできる」が 15 人から 21 人に増え、「あまりできない」が 0 人になった。外国語活動で、ペアで行う活動や、多くの友達とかかわる活動を取り入れたことで、友達を差別することなく、積極的にかかわろうとする児童が増えたことがわかる。

5. 考察とまとめ

手だてⅠでは、「ほめ合い、励まし合い」を合言葉に掲示物や教材を工夫することで、児童が安心して外国語活動に取り組む雰囲気をつくることができた。また、「ENGLISH」の視点の中から児童にめあてを持たせたり、評価ボードを活用したりしたことで、児童がめあてを達成するためにより意欲的に取り組むようになり、言語・非言語のコミュニケーション能力が伸びた。さらに、児童は担任、保護者からコメントをもらうことでより意欲的になった。児童には、家庭に帰ってから、「外国語活動で何を学習したのか」おうちの人に伝えるように言い、家庭でも簡単な復習ができた。これらのことが本研究の成果と考えられる。しかし、児童の言葉がけの視点を明確にしなかったため、児童がどう言葉をかけてよいのか戸惑う場面も見られた。また、「ENGLISH」の視点のうち、Eye-contact や Gesture など比較的達成することが簡単なめあてを持つとすると児童が多くなり、友達に流されてめあてを立てる児童もいた。

手だてⅡでは、学習前に「英語があまり好きでない」と答えた 4 名の児童に視点を当てて意図的にペアを組ませたこと、また単元を通してペアでの活動を多くすることで、英語に対する学習意欲が向上したと考えられる。シンプルで楽しく、1 / 4 時、2 / 4 時で習得した単語を 3 / 4 時、4 / 4 時でも使えるペアでの活動を精選して行ったが「児童の思い」を反映できる活動ではないものもあった。

成果としては、児童を「ほめる、励ます」場面をできるだけ多く設定し、言葉がけなどの「目に見える評価」を工夫したことで、外国語活動に対する意欲が高まり、ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション能力が伸びたことが挙げられる。また、意図的にペアリングをし、ペアで行う活動を多くしたことで「ほめ合い、励まし合い」が活発になり、外国語活動に対する意欲が高まり、児童のコミュニケーション能力が伸びたことも本研究の成果である。課題としては、友達を褒める、励ます視点が曖昧であったため、「褒め合い、励まし合い」が停滞した場面があった。今後は視点を明確にして活動に取り組みたい。これまでは英語に対する「意欲」、「積極性」を測る評価であったが、これからは英語力の「定着」を測る評価を「聞く、話す、読む、書く」の 4 観点に沿って考えていかなければならない。

6. 教科化に向けた「これからの評価」

教科化に伴い、「聞く・話す」については「英語力の定着」が求められ、「読む・書く」に関しては関心・意欲の向上を図ると文部科学省は発表している（文部科学省，2015）。

この発表をもとに、これからの小学校英語の評価はどうあるべきか、先進校の実践事例を考察していきたい。

(1) 聞くテスト

英語検定のリスニングテストがリスニング力が身に付いたかどうかを測る尺度として使われることが多いが、『Hi, friends』を使って授業をしたならば、資料1(石濱・渡邊, 2015)のような『Hi, friends』に準拠したリスニングテストを使うことが児童のリスニング力を測るにはより適切であると考えられる。特徴としては、外国語活動で慣れ親しんだ語彙や英文をどの程度理解しているかを正確に見取ることができ、年に2回以上実施すれば、児童のリスニング力がどれだけ伸びたのかも見取ることができる。本校では、平成28年5月と12月に実施している。

(2) 話すテスト

スピーキング力が身に付いたかどうかを測るものとしては、CAN-DOリストなどがよく使われているが、ここでは資料2の「自信ありリスト」、資料3「パフォーマンステスト」について考察する。「自信ありリスト」はCAN-DOリストなどと同様に自分がどの程度話せるのかを自己評価するものであり、自信を測る尺度として開発されたものである。自信と英語力の相関が強いという研究が多いことから、これらの自己評価は信頼性があると考えられる。ただ、実際に話せるかどうかを試しているものではなく、あくまでも自己評価になってしまうため、信頼性に欠ける部分もある。この課題を克服できるのが「パフォーマンステスト」である。資料3のように、児童がどの程度英語を話せるのか、評価の観点、評価規準を明確にしているので、1人1人の力を見取ることができる。しかし、テスト前に練習してしまったり、授業中は話せても、緊張して話せない児童がいたりして正確性に欠ける部分もある。また、もともと話すことが苦手な児童にとっては、英語の苦手意識を引き起こしてしまう原因ともなりかねない。「パフォーマンステスト」については、慎重に吟味する必要がある。

(3) 読む・書く意欲を測るテスト

本校では、リスニング力を高める授業を展開しつつ、資料4のように読む・書く意欲を高めるワークシート作りに取り組み、資料5読む・書く意欲を測るアンケート調査を実施している。結果は未定であるが、自分の書きたい文字のみをなぞるなど、児童に過度な負担をかけずに自然と「読みたい、書きたい」と思える活動を考えることが教科化に向けて必要である。

(4) 4技能を高めるポートフォリオ評価

資料6のように、4技能がどの程度達成できたのかを自己評価し、一冊の手帳にまとめていく「ポートフォリオ評価」を実践している学校もある。単元のはじめにその単元でどのような活動をするのかを教師が説明し、教師と児童で4技能のどのレベルまで達成するのかを話し合い、最後に振り返るという方法である。児童がどの程度英語力が身に付いたのか、児童自身がはっきりと把握できることが特徴である。

資料1 聴解力テスト (石濱・渡邊, 2015)

《問題2》

(1)~(10)まで、それぞれ2回ずつ英語を言います。その英語に合う絵に○をつけましょう。

(1)

1月	2月	3月	4月	わからない

(2)

5月	6月	7月	8月	わからない

(3)

9月	10月	11月	12月	わからない

(4)

		わからない

資料2 「自信ありリスト」

自信あり！リスト 5年生

資料1

5- Name _____

★項目ごとに、自己評価しよう！

【 ()でも自信がある ()自信がある ()あまり自信がない ()自信がない 】

項目	コミュニケーションの場面	あなたの自信度	Lesson
あいさつ	①がんとたんあいさつをする。	😊😊😊😊😊😊	1
	②相手に体の調子をたずねたり、答えたりする。	😊😊😊😊😊😊	2
	③お昼やジュースチャージャーをつけて、感情や様子を伝える。	😊😊😊😊😊😊	2
自己紹介	④自分の名前を言う。	😊😊😊😊😊😊	1
	⑤相手に名前をたずねる。	😊😊😊😊😊😊	1
数字	⑥自分の好きなものやきらいなものを言う。	😊😊😊😊😊😊	4
	⑦1~10までの数を言う。	😊😊😊😊😊😊	3
	⑧11~20までの数を言う。	😊😊😊😊😊😊	3
	⑨21~30までの数を言う。	😊😊😊😊😊😊	6
インタビュー	⑩数をたずねる。	😊😊😊😊😊😊	3
	⑪相手に好き嫌いなどをたずねたり、答えたりする。	😊😊😊😊😊😊	4
	⑫相手に何が好きかをたずねる。	😊😊😊😊😊😊	5
	⑬欲しいものについて、ていねいな言い方をたずねたり、答えたりする。	😊😊😊😊😊😊	9
アルファベット	⑭アルファベットの欧文を書く。	😊😊😊😊😊😊	6
身の回りや学校	⑮身の回りの物が何かとたずねたり、答えたりする。	😊😊😊😊😊😊	7
	⑯曜日を書く。	😊😊😊😊😊😊	8
	⑰教科を書く。	😊😊😊😊😊😊	8
⑱時間についてたずねたり、答えたりする。	😊😊😊😊😊😊	8	

★一年間をふり返って★

資料3 埼玉県深谷市で取り組んでいるパフォーマンステストの一部

話すことの実践力チェック
No. 10 Can you do this?

観点	①学習内容を生かした対話スキル	②会話をつなげるための戦略的スキル	③忠恕の心を育む対話スキル
評価方法	単元の基本表現を使って、自分のことや身近なことについて話すことができる。 (行動観察・自己評価カード)	ジェスチャーを入れたり、抑揚をつけたりして、相手の目を見て話すことができる。 (行動観察・自己評価カード)	ビッグハート言葉を使って、感謝を伝えたり、相手のよさを認めたりすることができる。 (行動観察・自己評価カード)
A	一人で、何とか話すことができる。	3つのスキルを使うことを意識しながら、話すことができる。	多様な表現を用いることを意識しながら、感謝を伝えたり、相手のよさを認めたりすることができる。
B	ヒントや助けがあれば、話すことができる。	相手の目を見て話すことができる。	ヒントや助けがあれば、いくつかの表現を用いて、感謝を伝えたり、相手のよさを認めたりすることができる。
C	ヒントや助けがあっても、話すことができない。	相手の目を見て話すことができない。	ヒントや助けがあっても、感謝を伝えたり、相手のよさを認めたりすることができない。

① ALT: Hello.
児童: Hello.
ALT: How are you?
児童: Im (気分).

B→ALTの問いに対して、1つ答えることができる。
A→ALTの問いに対して、2つ答えることができる。

② ALT: What do you want to be?
児童: I want to be (). →A
(単語のみ) →B

B→将来の夢について、基本表現を用いたり、単語で答えたりすることができる。
A→将来の夢について、基本表現を正しく用いて答えることができる。

③ ALT: Why?
児童: Because,
I want ().
I like (). etc

B→理由を単語や日本語で答えることができる。
A→理由を、基本表現を正しく用いて答えることができる。

資料4 「読む・書く」意欲を高めるワークシート

6年 Lesson 4

grade _____ class _____ No. _____ name _____

park

convenience store

school

station

bookstore

supermarket

flower shop

department store

6年 Lesson 4

grade _____ class _____ No. _____ name _____

()のところは、下から好きな言葉をえらんで、書いてみよう。

Where is the ()?

Go straight.

Turn right.

Turn left.

資料5 「読む・書く」意欲を測るアンケートの一部

㉞ 英語の短い単語 (cut, tap, take など) が読めるようになったと思いますか。

1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. 必ず 4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない

㉟ 英語の文字や文章を読みたいですか。

1. とても読みたい 2. 読みたい 3. 必ず 4. あまり読みたいくない 5. 読みたいくない

㊱ 英語の授業以外で短い英語を見たとき、読んでみようとしていますか。

1. 進んで読んでみようとする 2. 読もうとする 3. 必ず 4. あまり読もうとしない 5. 読もうとしない

㊲ 英語の文字を書いてみたいですか。

1. 書いてみたい 2. 少し書いてみたい 3. 必ず 4. あまり書きたくない 5. 書きたくない

資料6 ポートフォリオ評価

G5-1 Task
ふ、ぞく小学校のCMをつくらう。

Make your goals with your teacher and color in the circles when you reach the goals.

Listening
先生や友だちの話す英語を聞いて、反応を返すことができる。

Speaking
This is ～. を使って学校のことを伝えることができる。

Reading
This is a peach の本を声に出して読むことができる。

Writing
This is ～. の文を書くことができる。

Your reflection
ビデオをとるときにオーストラリアの人たちにも伝わるように、はきりよく言うことに気をつけました。ビデオの撮影がとくのが楽しみです。

Culture
オーストラリアについて調べ、自分の考えをもつことができる。

Teacher's signature
Good job! 5/10
Aoyama

引用文献

石濱博之・渡邊時夫・染谷藤重 (2015). 「『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告(2)―改訂した聴解力テストの試み―」 JES Journal 15, 18-33.

石濱博之・渡邊時夫 (2015). 「『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの開発とその運用結果に関する報告(2)」 ARELE 第26号, 397- 412.

埼玉県総合教育センター(2016). 「小学校外国語活動 自信ありリスト」 埼玉県総合教育センターのホームページ <http://www.center.spec.ed.jp/>

鳴門教育大学附属小学校(2016). 『My Language Passport』 徳島：鳴門教育大学附属小学校.

深谷市立深谷小学校(2016). 『外国語活動 活動案集』 埼玉：深谷市立深谷小学校.

深谷市教育委員会 (2016). 「平成 27 年度 深谷市小学校外国語の教科化に係る全体発表会」 平成 27 年度 深谷市小学校外国語の教科化に係る全体発表会資料.